



茶道裏千家淡交会
石川青年部

お茶ログ

第13号 2019年10月

～お茶ログの由来～

“ログ”は航海日誌(logbook)の意味があります。たくさんの仲間と大きな船で出航し、航海を続けています。

利休居士道歌

その道に入らんと思ふ心こそ
我身ながらの師匠なりけれ

ことば

私達は茶道の真の相を学び、
それを実践にうつして、たえず
己れの心をかえりみて、一盃
を手にしては多くの恩愛に感謝
をささげ、お互いに人々によつて
生かされていることを知る茶道の
よさをみんなに伝えるよう努力
しましょう。

一、他人をあなどることなく、
いつも思いやりが先にたつように

一、家元は親、同門は兄弟で、
共に一体であるから、誰にあつても合掌する心を忘れぬように

一、道を修めなお励みつつも、
初心を忘れぬように

一、豊かな心で、
人々に交わり、世の中が明るく暮らせるように

青年部綱領

われわれ茶道を愛好する青年としての自覚により淡交会の諸活動に協力し、お茶を通じて良識ある近代人としての人間形成に努め、同志的結合によつて結ばれた友情と情熱で正しい地域社会発展のために努めよう。

令和元年度・2年度 石川青年部年間テーマ： **今こそ挑戦！ ～石川青年部の未来へ～**

部長挨拶



令和元年度・2年度
石川青年部部長
織田 聡

皆様には日頃より青年部の諸活動にご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。
今期のテーマは「今こそ挑戦！～石川青年部の未来へ～」を掲げています。新体制を発足して10ヶ月、青年部の未来の為に変化を求めて、1月総会時のわくわくワークショップから始まり、新しい取り組みや行事を考えて進めてまいりました。皆様にとってこれまで以上に楽しく、参加したくなる行事が一つでも多くなりますよう邁進して参ります。

先生方には今後とも挑戦を続ける青年部へのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

白山茶会

2月10日(日)【白山比咩神社】参加者人数121名(内会員13名)

白山比咩神社では毎月第1日曜日を主に、ご祈禱・ご参拝にいらっしゃった方々へ呈茶が行われています。石川青年部は毎年2月にご奉仕させていただいています。お茶を奉納してから立礼で行われました。



第75回金沢市工芸展呈茶

2月27日(水)～3月4日(月)【めいてつ・エムザ】参加者人数1365名(内会員72名)

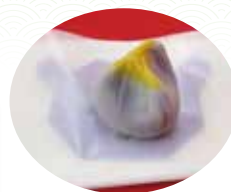
金沢市工芸展は現代生活に適応した工芸品を採求するとともに、金沢市の工芸の振興に寄与することを目的とした展覧会です。今年も6日間にわたり会場内に設けられたお茶席にて、地元作家の作品で呈茶をさせていただきました。



わんぱくフェスティバル

5月5日(日)【いしかわ子ども交流センター】参加者人数163名(内会員13名)

毎年こどもの日に行われている「わんぱくフェスティバル」にて、「金太郎」をテーマにたくさんの子どもたちやそのご家族にお茶を楽しんでいただきました。



お菓子を食べると
熊さん登場!



宮崎寒雉ふる里茶会

5月19日(日)【明王院】(受付・茶席)【地福院】(点心席) 参加者人数312名(内会員12名)

初代宮崎寒雉生誕の地である穴水町中居地区の明王院、地福院にて行われました。明王院では当代宮崎寒雉氏が亭主をされ、地福院では地の物を使った点心が振る舞われました。青年部は茶席や点心のお運びをお手伝いしました。



初代作の釜で
もてなされました



青年部茶会『星青茶会 ～誰も取り残さない、一人一人が輝ける未来』

6月16日（日）【にぎわいの里 ののいちカミーノ】参加者人数115名（内会員49名）

青年部茶会はお世話になっている先生方やお社中の方、交流のある他青年部の方をお招きし、会員みんなで試行錯誤しながら作り上げるお茶会です。今回は星空の設えでおもてなしをしました。



一つひとつを会員に見立てた星の飾り



『天の海に雲の波立ち月の船
星の林に漕ぎ隠る見ゆ』
(万葉集)

から銘を付けた「天の海」
あめ



「蛇籠煎餅」と「芦」
(吉はし製)

～茶席～

奉仕・地域交流委員会 渡辺大輔

皆が星空に輝く星になるよう、皆で茶会を作り上げられるよう、各自の役割を決めて当日に臨みました。役割に慣れておらず互いにヒヤヒヤさせる場面があっても、お互いに補い合って進められたと思います。初めて使う茶室だったにも関わらず、襖の位置、星の飾りつけ方法など、キラリと光るアイディアが出て良かったです。お世話になっている先生方、諸先輩方にも好評だったようです。茶会を通じて、皆との繋がりが一層深まったように思います。青年部の良さを改めて感じられた一日でした。



待合



待合では昨年度の
石川青年部の活動報告がされました

茶席に飾られた
青年部号
全会員を乗せて
航海中です



点心席



「きれい!!」
「おいしいっ!!」という
お客様の声をたくさん
いただきました



太きゅうりの真薯や
手鞠寿司など色とりどり



折是水引で飾られました



～点心席～
ジュニア委員会 香村 史

準備段階から皆さんの想像力と創造力に感心し通
して迎えた当日、手作りの品々を彩り豊かに盛り付
けた折詰がずらりと並んだ様をみたときの感動や、
タイミングを見計らって椀が次々と運ばれていく時
の緊張感はこの係だからこそ経験でした。何より
皆さんの細やかで温かい心遣いには学ぶことばかり
でした。目の前の事に精一杯ではありましたが、参
加でき本当に良かったと感謝しています。



のと里山空港呈茶

のと里山空港をご利用になる方にお茶と季節のお菓子を楽しんでいただいています。今年で13年目になりました。

5月4日（土）参加者人数415名（内会員15名）

「のとキリシマツツジフェスティバル」とともに開催され、今回は台湾からのチャーター便もあり、海外からのお客様も迎えることができました。

7月7日（日）参加者人数397名（内会員17名）

「のと里山空港開港16周年記念イベント」とともに開催されました。日本航空高等学校石川の生徒たちと協力をして、おもてなしをすることができました。



こどもの日にちなみ、
お菓子は「柏餅」（吉野屋製）



教養講座

6月29日（土）【金沢歌劇座】参加者人数38名

石川青年部会員である釜師の宮崎匠氏から「釜トーク」と題して釜の素材や作り方などについて、同じく会員で味漬窯主のまいけいようしゅ四代矢口永壽氏から「土トーク」と題して陶器と磁器の違いや九谷焼について講演をしていただきました。最後は織田部長も加わり「お茶トーク」と題してこれまでの青年部活動や今後のあり方について、トークセッションが行われました。



第9期北陸信越ブロック研修チーム報告

北陸信越ブロック及び各青年部の将来中心的な役割を果たす人材の発掘・育成を目的とした研修プログラムです。

研修チーム員：岡 能之、花形祥子、前田卯木、松村久乃

岡 能之

第9期研修チームに参加しております。驚いたことにこれは全国ではなく、この北陸信越ブロック独自の取り組みで、他のブロックからも視察にくる研修プログラムということです。内容は研修チームのメンバーが2年間で6回ほど集まり、様々なプログラムを通し、茶道の見識を高め、ブロック内会員同士の仲間意識を助成するものです。

現在まで2回研修が行われ、3分間スピーチでの自己紹介や普段あまり書くことがない巻紙を書く研修、また、兜門、聚光院や金毛閣の拝観、福寿園CHA遊学パークでの茶摘み体験と石臼をひく体験をしました。皆でお酒を飲みながら各青年部の取り組みなどを話し、交流を深めることができます。毎回充実した実り多き時間となっております。



入会案内

【入会資格】50歳までの裏千家茶道愛好者の方

【入会方法】推薦者(淡交会の正副支部長・支部顧問、終身正会員以上の教授者、学校茶道指導者いずれかの推薦を得てください。)を通じて、青年部の連絡事務所へ申し出ます。裏千家ホームページからも申し込みます。(http://www.urasenke.or.jp/)

【年会費】25歳までは1,000円 26歳以上は3,000円

令和元年度下半期行事

◆白山登山室堂呈茶	8月 3日(土)～4日(日)	白山室堂広場
◇浜土産茶会	8月 3日(土)	能登食祭市場モンテレーホール
◆子どもお茶を楽しむつどい	8月 18日(日)	いしかわ子ども交流センター
◇第2回教養講座	10月 5日(土)～6日(日)	静岡県浜松市・愛知県豊田市
◆第103回千代女全国俳句大会呈茶	10月 12日(土)	千代女の里俳句館
◇会員茶会	10月 20日(日)	能楽堂別館 対青軒
◆子どもお茶を楽しむつどい	10月 27日(日)	いしかわ子ども交流センター
◇卒業茶会	12月 8日(日)	旧園邸
◆子どもお茶を楽しむつどい	12月 15日(日)	いしかわ子ども交流センター

※行事の日程、内容は変更になることがあります。

発行責任者：茶道裏千家淡交会 石川青年部部長 織田 聡

編集責任者：広報委員長 前田卯木

広報委員：浮田 舞、河井利浩、橋本章子、宮崎 匠
谷内純世、吉田美々

茶道裏千家淡交会青年部北陸信越ブロックホームページ

URL <http://www.hokurikushinetsu-seinenbu.org/>

石川青年部の活動も
載っています！

編集後記

今回は広報委員長としてこれまでより多くの行事に参加し、一つひとつの行事に込められた思いに直接触れ、この石川青年部の素晴らしさを改めて感じています。今後も様々な行事が予定されています。皆さんにお会いできること、また新たな出会いがあることを期待しています。作成に当たりご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。前田卯木